



カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 平成30年9月号

家庭学習強化週間はじまる

秋分も過ぎ、ここサンフランシスコでも、街路樹の銀杏の葉も色づきめっきりと秋の気配を感じるようになりました。秋は読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋などと言われます。

本格的な秋を迎えて、本校では、家庭学習強化週間が9月29日（土）から10月12日（金）までの2週間の期間で

行われます。そのねらいは、児童生徒の皆さんに家庭学習の習慣を身に付けて欲しいということです。補習校（本校）での家庭学習は宿題が中心になりますが、宿題は学習の定着を図ったりするだけではなく、家庭で学習する習慣を身に付けさせるところに意義があります。

全国学力・学習状況調査は、「家で学校の宿題をしている」「朝食を毎日食べている」「学校に持っていくものを前日か、その日の朝に確かめている」などの生活・学習習慣と学力の相関関係を明らかにしています。

また、「学力の経済学」（教育経済学者：中室牧子）に



【授業の様子（本文とは関係ありません）】 よると、家で、子供が勉強しているのを親が傍で見守っているだけで学習効果があがることをエビデンスに基づいて指摘しています。ちなみに、その効果は母親より父親のほうが高いそうです。

「家庭学習強化週間」をきっかけに、宿題を計画的に効率的に行うことはもちろんのこと、家庭学習の習慣化を図るためにはどうすればいいか、しっかりと子どもと話し合い取り組んで欲しいと思います。親子のコミュニケーションの機会にもなります。本校で配布した「家庭学習の習慣化に向けて」の冊子も参考にいただければと思います。



～人間っていいな～

今年の日本の夏は猛暑と自然災害が続き多くの尊い人命が奪われるというニュースが、連日のようにテレビ、ラジオ等で報道されていました。そのような悲しいニュースの中にあって、「人間っていいな」と思わせる明るい記事もありました。皆さんも既にご存知かと思いますが、山口県周防大島町で行方不明となった2才の男の子を一ボランティアが発見したニュースです。名前は尾島春雄さんです。彼を有名にしたのは、子どもを発見したからだけではありません。苦境を乗り越えて65歳で家業の魚屋をたたみ、自分の残された人生のすべてをボランティア活動に注ぐことにしたからです。その活動は徹底しています。災害の起きた場所へ自分の車で行き、寝食も自分の車でしながら、活動するというスタイルです。この間被災地の方々の世話は一切お断りしています。つまり、尾島さんは65歳からは自分のために生きることを止め、人のために生きることにしたのです。この純朴で純粋な心に触れ多くの日本国民は感動したのです。

人は、社会的な動物であるとするれば、尾島さんは理想的な生き方のモデルの一つを示してくれたと思います。久しぶりに心が洗われるニュースでした。